

おめでとう

満100歳

早乙女キヨさん（相川）が、十月二十五日に満百歳の誕生日を迎えられ、長寿のお祝いが大石町長から手渡されました。早乙女さんは、明治十四年十月二十五日栃木県で生まれました。満百歳を迎えられても、大変健康で何んでもよく食べられるそうです。



今月の主な記事

- ・ひろげよう福祉の輪④…2・3ページ
- ・ゴミ問題を考える③…4・5ページ
- ・スポーツニュース…6ページ
- ・健康カルテ…7ページ
- ・激増する若者運転者の死亡事故8ページ
- ・ふるさと館ニュース…10ページ

まぐびつ

'81 (昭和56年)

11

358

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555) 4-2111  
●編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴ印刷

# 出来ることは

が「心を開くこと」から始まります—

一九八二年——ことしは「国際障害者年」です。

世界各地で「完全参加と平等」をテーマに障害者福祉の高まりを目指して、いろいろな取り組みが持たれています。

広報「まくべつ」でも、二月号から「国際障害者年特集」を企画掲載し、幕別町の障害者福祉の現状と障害を持つ人、また、福祉に携わる人たちの考えや願いを紹介し、国際障害者年を皆さんとともに考えてきました。

ここで、もう一度、振り返ってみますと「障害者への理解と働く場がほしい」という願い「道立の整肢学院がほしい」という障害児（幼児）の親の願い「あかじや学級卒業後も訓練と学習を受けられる場を」という障害児（学齢児・在宅）の親の願いがありました。



寝たきりで家庭では入浴することが困難なお年寄りの入浴のお手伝いをする婦人ボランティアの皆さん

また、障害者から障害者へ「障害に負けず、明るく生きよう。限らない可能性へ挑戦しよう」という呼びかけもありました。

そこで、今月は「私たち（障害者も健全者も総てという意味）が出来ることは何か」について皆さんと考えてみたいと思います。

## 「二つの壁」

障害を持つ人たちの願いを考え、障害を持つ人たちが、現実社会において、健全者と生活を等しく営むことができるようにするためには「二つの壁」があると云えます。

一つは「物理的な壁」です。道路や建物、そして、乗り物まで、障害を持つ人にとって充分ではなかったということなのです。

そして、もう一つは「心の壁」です。みんなの心の中にある障害への差別と偏見です。

「物理的な壁」——は、お金をかけることによってある程度取り除くことが出来ます。道路も建物も乗り物も、新しく造る物は総ての人が自由に使えるように考案し、また、既存の物は、改造することによって取り除くことが出来ると言えます。

また、「心の壁」は、健全者も障害を持った人も、みんなが心を開くことから始まります。そして、障害を持つ人は、自立の意志と努力を示し、周囲の人たちが、自分のこととして考えるとき、本当に住みよい社会に近づいていくと言えます。

「私たちが出来ること」——それは、心を開き、誰れもが同じく生活できる社会を、みんなで作ることではないでしょうか。

## 役場人事異動

十月一日付

- 〔部長職〕
- ▽経済部長 国民宿舍支配人 二川勝美
- 〔課長職〕
- ▽国民宿舍支配人（経済部農林課長） 秋山稔
- ▽経済部農林課長（総務部児童課長） 山口秀勝
- ▽総務部児童課長（建設部下水道課庶務係長） 嶺野 範雄

- 〔係長職〕
- ▽建設部下水道課庶務係長（総務部税務課納税係長） 渋谷真一
- ▽総務部税務課納税係長（経済部農林課畜産係） 金須 幸雄

- 〔係職〕
- ▽経済部農林課畜産係・金野 忠
- ▽建設部札内区画整理事務所区画整理係・氏原英俊

## あなたも

### ボランティア活動を

「心を開く」とは、お互いがお互いを理解し合い、助け合い、ともに生きることと言えます。この考えにたつのが「ボランティア活動」です。

ボランティア活動は、かわいそうだとか、気の毒だとかいったあわれみや善意から生まれてくる活

## ひろげよう福祉の輪

### 国際障害者年特集 ⑥

# 私たちに

—それは、一人ひとり

す。オムツの奉仕は、オムツ地の募集とその整備を行う活動です。

このように、ボランティア活動は、特別な活動ではなく、誰れも

が参加できる活動です。

## 国際障害者年記念事業

# 第一回幕別町ふれあい広場を主催

テーマは「国際障害者年を考える」

国際障害者年記念事業「第一回幕別町ふれあい広場」が、十一月二十二日(日)町民会館大ホールにおいて開催されます。

テーマは「国際障害者年を考える」で、心身に障害を持った人と健常者が、一緒になって働き、助け合い、生活できる幸せな地域社会をつくるため、一人ひとりが何をなすべきかを考えようというものです。

主催は、町社会福祉協議会ですが、より多くの町民の皆さんの参加をいただこうと、町内福祉団体などで実行委員会(横山武実行委員長)を組織して取り組んでいます。

当日は、表一にあるプログラムによって運営されますが、「提言」では、①スライドによる幕別町の障害者福祉の現状報告②障害者からの体験を通しての発表が行われます。

「記念講演」は、播磨靖夫さん(奈良県たんぼの家理事長)で、



表一 プログラム

9	10	11	12	13	14	15	16
受付	開会	提言	記念講演	昼食	アトラクション	まとめ	閉会

作品展示即売  
と き 11月22日(日) 9時30分開会  
ところ 町民会館大ホール

「アトラクション」は、札幌歌うボランティアによる「わたぼうしミニコンサート」が行われます。「まとめ」では、一日の「集い」を通しての感想や意見交換が行われます。

また、「集い」に並行して、町外の心身に障害を持つ人たちの作品を展示即売します。出品団体は町心身障害児教育振興会、はまなす作業所(帯広市・手芸)、わかふじ寮(新得町・木工)です。入場券は、大人(中学生以上)三百円、小人無料です。入場券をお求めの方は、町社会福祉協議会事務局(役場民生課内)か、役場札内支所、糠内・駒島各出張所へお問い合わせください。

当日、札内福祉センター前、糠内公民館前から町福祉バスを運行します。時間は午前八時四十五分発です。ご利用ください。

## あかしや学級に寄付

— 札内剣道スポーツ少年団 —  
札内剣道スポーツ少年団(細川浩司団長、団員三十三人)から、札内神社秋季祭典でのおみこし奉仕料の一部(六千五百円)を札内中学校あかしや学級の教材の一部に使ってくださいと寄付がありました。

## 「札内寮」へ

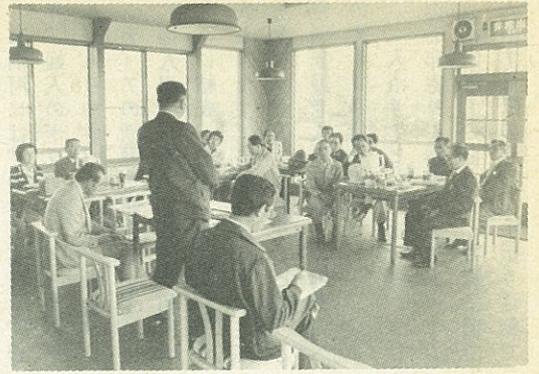
### オムツの奉仕

— 幕中家庭教育学級 —  
幕別中学校家庭教育学級(田所敏子会長・会員四十人)が、今年、国際障害者年でもあり、何か福祉的活動をと、特別養護老人ホーム「札内寮」へ「オムツの奉仕」を行いました。

同学級では「これからも、オムツのほかに、お年寄りとの話し合いなど交流も深めて行きたい」と話しています。



オムツを手渡す代表の皆さん



## 「生活環境」をテーマに 第2回町づくり見学会 行われるー

昭和五十六年度、第二回「町づくり見学会」が、九月二十九日に三十三人が参加して行われました。「町づくり見学会」は、町民の皆さんに町づくりの現状を見ていただき、町づくりへ理解を高めていただくというもので、今回は「生活環境と町づくり」をテーマに行われました。

生活環境といっても、道路・下水道・公園・環境衛生と幅広く、私たちの生活に密接な「環境衛生」を中心に見学を行いました。一行は、町民会館前をスタート。

明野が丘公園―豊岡ゴミ捨て場―帯広清掃工場―鈴蘭浄苑―依田公園の順で見学しました。見学会終了後、依田公園焼肉ガーデンにおいて、大石町長を交え町づくりについて「懇談会」が開かれました。懇談会では、ゴミ問題、特に、「ゴミの分別収集」に対して、意見や問題提起がされました。そこで、ゴミ問題を中心に、見学会の内容、懇談会での意見を参加できなかった皆さんとともに、考えてみたいと思います。

## ゴミ問題を考える③

# 守られていない分別収集

見学会の一行は、九時二十分町民会館前をスタート、明野が丘公園へ向いました。

「ゴミ問題を考える」  
―今回は、九月二十九日に行われた第二回町づくり見学会の内容と参加者の意見を中心に、皆さんと考えてみたいと思います。

明野が丘公園は、町開基八十年記念事業の一つとして、五十二年に着手された事業です。総面積二十五畝、十カ年計画で造成が進められています。頂上からは、幕別市街はもとより、池田町や十勝川温泉も見渡せ、参加者も「こんなすばらしい公園は一日も早く完成してほしい」と話していました。一行は、明野が丘公園を後にして、見学会の本題である「豊岡ゴ

ミ捨て場」へと向いました。「豊岡ゴミ捨て場」は、産業廃棄物や一般家庭から出される燃えないゴミを埋立て処理するところとして、五十年に建設されました。建設当時十年以上使用できる計画であったものが、使用開始とともに年々増えつづけて、埋まるゴミの量の説明に参加者も驚いていました。

## 燃えるゴミの中に 空カンが……………

また、見学中に、パッカー車が



朝の収集を終え登場。一般家庭から出されるゴミの内容を見ること

## 残さが三〇%も…

一般家庭から出される、燃えるゴミは、幕別町を含めた一市五町村で運営されている「帯広清掃工場」で焼却処理されています。一行は、「帯広清掃工場」へ向きました。パッカー車で運ばれたゴミは、焼却炉へ。焼却処理工程を見学、最後に見学したのが、残さ（燃えガラ）です。一般的に、残さの量は、ゴミの

幕別町の場合、燃えるゴミの日燃えないゴミの日を設ける、すなわち「分別収集」を行っています。そして、それぞれの日を記した、「ゴミカレンダー」を各戸に配布しています。ですから、ゴミを出すとき、カレンダーを見れば、今日はどちらの日かわかるわけです。



1市5町村から進められるゴミの量  
1日100tにもなります。  
(帯広清掃工場)

量の一六%といわれています。ところが、帯広清掃工場から出る残さは、三〇%にもなります。いかに、燃えないゴミが混入されているかということであり、参加者一同、豊岡ゴミ捨て場でのゴミ袋の中を思い出していました。

## 家の中にゴミ箱を

二種類(燃えるゴミ用  
燃えないゴミ用)

用意したら……

一行は、音更町木野にある、し



猪股英子さん  
(札内あかしや町)

燃えるゴミ、燃えない  
ゴミの区別は次のように  
行ってください

■燃えるゴミ  
紙類、繊維類、わら製  
品、木製品(一斗以内の  
もの)、厨芥(魚介、野  
菜、残飯、果物の皮)

■燃えないゴミ  
金属、ビン、ガラス、  
燃ガラ、プラスチック、  
ビニール類、ゴム、皮製  
品、魚などのパック容器、  
発泡スチロール

私たち主婦にとって、一番身近  
かな問題がテーマでしたので参加  
してみました。燃えるゴミ、燃え  
ないゴミの区別は、自分ではやっ  
ていると思いつい混ざって出  
していることもあるのではと考え  
させられました。

最後の懇談会でも「家の中に燃  
えるゴミ用、燃えないゴミ用と二  
つのゴミ箱の設置」という意見が



中村正太郎さん  
(宝町)

## "マチの声"

ありましたが、家に帰って、早速  
ゴミ箱を二つ用意しました。

八月の二度にわたる台風の接近  
と、五月中旬からの低温など異常  
気象が収穫期まで続き、農作物に  
大きな被害が出ています。

このため、町では、各関係機関  
団体の協力を得て、大石町長を本  
部長とする「幕別町異常気象災害  
対策本部」を十月十三日設置しま  
した。

同本部では、被害の実態調査を  
進めるとともに、明年度以降の再  
生産用種子の確保対策、飼料確保  
対策、資金対策などに全力で取り  
組むことになりました。

「心の問題」ではないでしょうか。  
今月のテーマの分別収集の問題  
にしても「私さえよければ……」  
という甘えを捨て、ルールを守る  
心を持つことが大切です。

そして、住みよい町をみんなの  
心でつくろうではありませんか。

つけることが大切」

## 住みよい町は みんなの心で

ゴミ問題を考えるとき、「お金  
の問題」「環境美化の問題」がク  
ローズ・アップされます。しかし

## 異常気象災害

## 対策本部を設置



始まった豆の脱穀

# 秋晴れのもと

## 370人が競う

—10月10日第12回全町マラソン大会が行われる—



第十二回全町マラソン大会が、秋晴れのもと十月十日、町営陸上競技場において行われました。同大会には、幼児から壮年組まで三百七十人が参加、健脚を競いました。成績は次のとおりです。(一位のみ掲載)

### 男子の部

- ▽小学一年・加瀬博文(幕小)
- ▽同二年・木村尚樹(幕小)
- ▽同三年・中山仁(幕小)
- ▽同四年・山畑尚禎(幕小)
- ▽同五年・荒直幸(幕小)
- ▽同六年・竹内満晴(幕小)
- ▽中学男子・神山和寿(札内中)
- ▽高校男子・城石徹(札内春日町)
- ▽一般男子・国安広美(明野)
- ▽壮年A・野々村一(帯広)
- ▽同B・島山博基(札内新北町)

### 女子の部

- ▽小学一年・長内静香(札内北小)
- ▽同二年・松田望(札内南小)
- ▽同三年・八太祐佳(棟小)
- ▽同四年・堀口友美(幕小)
- ▽同五年・高山千夏(幕小)
- ▽同六年・古川さなえ(相川小)
- ▽中学女子・松田洋子(札内中)

▽ママさん・松田綾子(札内若草町)

### 幼児の部

▽菅原憲(宝町)

## 札内春日公区が優勝

### が優勝

#### 第26回町民野球大会

第二十六回町民野球大会が九月六日、町営球場ほか三グラウンドにおいて、十二チームが参加して行われました。その結果、札内春日公区が緑町第四公区を七対〇でくだし優勝しました。

### 一回戦

- 緑町第三 5-0 緑町第二
- 緑町第四 3-0 札内青葉町
- 棟内 0-0 旭町第四
- (ジャンケンで棟内の勝ち)
- 札内春日公区 1-0 新町
- (新町が棄権)

### 二回戦

- 緑町第三 4-2 札内若草公区
- 緑町第四 1-0 稲志別
- (稲志別が棄権)
- 札内新北町 2-2 棟内
- (ジャンケンで札内新北町の勝ち)
- 札内春日公区 1-0 札内中央町

### 準決勝

- 緑町第四 4-1 緑町第三
- 札内春日公区 8-1 札内新北町

### 決勝

- 札内春日公区 7-0 緑町第四

### 第6回幕別町軟式野球協会設立



優勝した札内春日公区チーム

#### 記念朝野球大会

- [Aクラス] △優勝・イーグルス
- ▽準優勝・北王コンサルタント
- ▽一位・商工青年部、コンプレックス

#### [Bクラス]

- ▽優勝・葵クラブ
- ▽準優勝・サンダーボード
- ▽一位・十勝葉山電器、足利モーターズ

#### [Cクラス]

- ▽優勝・ギャートルズ
- ▽準優勝・幕別高校
- ▽一位・幕小アルコルズ、極光クラブ

#### [Dクラス]

- ▽優勝・札内若草町
- ▽準優勝・シャトルズ
- ▽一位・札内農協、三角定規

## 札内泉町が優勝

#### 第8回町民ソフトボール

決勝大会

第八回町民ソフトボール決勝大会が、十月十日、幕別小学校グラウンドにおいて行われました。その結果、札内泉町が優勝しました。

### 一回戦

- 札内桂町 6-6 緑町第三
- (抽選で札内桂町の勝ち)
- 札内春日町 11-3 棟内市街
- 札内泉町 7-0 旭町
- 駒島 12-5 札内共栄第一

### 準決勝

- 札内春日町 6-2 札内桂町
- 札内泉町 18-1 駒島

### 決勝

- 札内泉町 10-3 札内春日町

芝木・奥田(男子)組  
加藤・池本(女子)組  
**が優勝**

—テニスコート納め大会—

五十六年度テニスコート納め大会が、十月四日、町営コートにおいて男子三十人、女子六十二人が参加して行われました。

### 男子の部



# 健康 ⑦ カルテ

## 「予防接種」

からだの中に伝染病の病原体が侵入すると、病原体の性質によって熱、下痢、まひ、けいれんなど、さまざまな症状が現われて、ひどいときは死亡することもあります。しかし、死亡しなかった場合は、その病気に対して抵抗力すなわち免疫をもつようになります。

この免疫を、自然感染ではなく、人工的に得ようとするのが「予防接種」です。

子供は、からだのさまざまな器官や組織が未完成で、その働きも十分でなく、一般に年齢の小さいほど病気に対する免疫力が弱いものです。特に外出の機会が多くなるにつれて、感染症にかかりやすくなります。不必要に人ごみに連れだすことは避け予防接種のできるものは早目に受けるようにしましょう。

町では、三種混合（百日せき・ジフテリア・破傷風）、ポリオ、ツ反BCG、麻疹、風疹の予防接種を定期的実施しています。また、集団接種を前提として、該当者の接種年齢をきめておりますので、親や家庭の事情で接種時期を逸しないよう注意してください。

子供の体質や健康状態によっては、予防接種を受けない方がよいときもあります。次のような場合、接種を延期するか中止するときがあります。

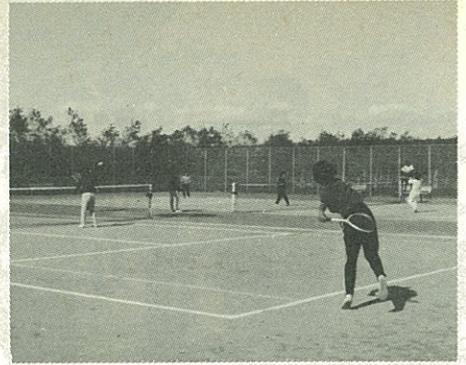
- ① 熱があるとき
- ② カゼ、下痢で元気がないとき
- ③ 未熟児でまだ体重が十分回復していないとき
- ④ 病気が重いとき

また、次のようなときは医師に相談してください。

- ① アレルギー体質
- ② ひきつけやすい子供
- ③ 病気のあと
- ④ 先天性の心臓疾患などがあるとき

この他、予防接種の受け方、日程など詳しいことについては、役場総務部民生課保健係へお問い合わせください。

(☎ 4-2111 内線105)



# 事業所(民営)は 七一九カ所

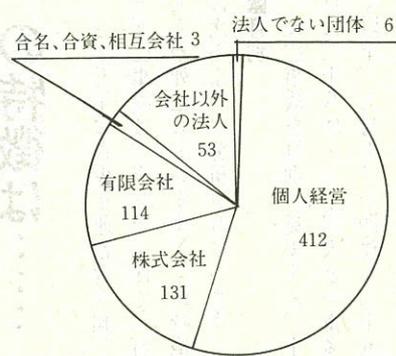
## 事業所統計調査結果から

総理府統計局が七月一日現在で調査した「事業所統計調査」によりますと、幕別町内の民営の事業所は、七百十九カ所で、五十三年の調査に比べ三十カ所(四・二%)の増加となりました。

同調査は、三年に一回行われ、事業所数、従業員数など事業活動の基本となる事項を調べるものです。

- 準決勝  
逢坂・大島組 4-1 笹井・上田組
- 芝木・奥田組 4-1 富田・吉田組
- 決勝  
芝木・奥田組 4-3 逢坂・大島組
- 女子の部
- 準決勝  
笹川・勝山組 3-2 松山・嶺野組
- 加藤・池本組 3-1 三宅・鯨岡組
- 決勝  
加藤・池本組 3-1 笹川・勝山組

調査結果によりますと、「従業員数」では、五千七百八十一人で前回に比べ、九百八十一人(二〇・二%)の増加となっています。「業種別事業所数」では、卸売・小売業が最も多く二百九十三カ



所、次いで、サービス業―百八十四カ所、建設業―九十二カ所、製造業―七十二カ所の順になっています。「経営組織別事業所数」では、

図一に示すように、個人経営が最も多く四百十二カ所です。前回と比べてみますと、個人経営が十六カ所の減、株式会社―十九カ所の増、有限会社―二十三カ所の増、合名・合資・相互会社―四カ所の減、会社以外の法人―五カ所の増と、個人経営から会社組織への移行が見られます。

「開設時期区分別事業所数」では、前回調査後に開設された事業所が百二十一カ所と全体の一六%を占めています。これに対し、廃業事業所は、九十一カ所ありました。「本・支所別事業所数」では、単独事業所が五百五十三カ所、本社・本店―二十五カ所、支所・支社支店―百四十一カ所となっています。これを、前回と比べますと支所・支社・支店が、二十八カ所増加しており、企業(事業所)の進出が多かったという結果が出ています。

たばこ消費税は  
暮らしの中に  
生かされています。



●たばこは町内で買ひましょう。

# 激増する

# 青少年運転手の死亡事故

事故の半数はスピードの出しすぎ

北海道警察本部交通部がまとめた「昭和五十五年交通事故資料」により、二十五歳未満のいわゆる青少年ドライバーの無謀運転によるものが四〇%以上を占めていることがわかりました。この資料をもとに、皆さんと交通安全について考えてみたいと思います。

昭和五十五年道内で起きた交通事故は、一万六千七百三十七件で、そのうち、二十五歳未満の青少年運転者の事故が五千五百六十件と全体の三三・二%を占め、死

亡事故では四〇・六%にもなっています。この傾向は、帯広警察署管内でも同じで、全体の三二・三%を占め、年々増加の傾向にあります。



「交通事故死〇十勝百日作戦実施中」の旗を大石町長に手渡す佐々木帯広警察長

このように、青少年運転者に事故が多いという背景には、遵法意識の低下、節度ある行動の欠如などモラル全般にわたる問題があるといえます。道警本部がまとめた青少年運転者の交通事故の実態をもとに、皆さんと交通安全について考えてみたいと思います。

## 交通死亡事故の特徴は……

五十五年青少年運転者が起した死亡事故は、百八十三件で二百七人が死亡しています。その特徴は次のように分析されています。

- 月別  
死亡事故を月別に見ますと、十月に二十八件・三十四人と一番多く、九月に二十四件・二十八人、八月に二十三件・二十六人、十一月に二十件・二十二人と八月から十一月までの間に五一・九%と多発しています。
- 類型別  
事故内容では、車対車が五十九件・七十六人と一番多く、以下、車両単独が五十五件・六十一人、

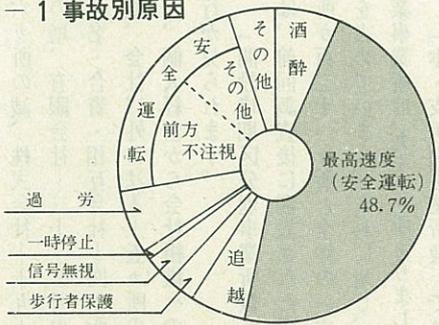
人対車両が五十四件・五十五人となっています。この中で、車両単独事故が三〇・一%と高くなっています。

■時間別  
事故発生を時間別に見ますと、夜間から早朝（二十時から六時）にかけての事故が四二・二%を占め、青少年を含めた全体の死亡事故（二四・七%）に比べて著しく高くなっています。

■道路別  
事故発生場所では、市街地より非市街地に多く、特にカーブでの事故が四十件、二〇・八%を占めています。

■原因別  
事故原因別では、図一に示すように、四八・七%が速度の出し過ぎによる事故となっています。

図一 事故別原因



また、「事故直前の走行速度」を見ると八十キロ以上の高速走行

中の事故が六七%を占め、四十キロ以上オーバーでの事故が五四%を占めており、スピードの出し過ぎが事故に結びついているといえます。

## 交通安全は家庭から

以上のように、青少年運転者の死亡事故を分析してみますと「情緒不安定な若者は、一時的な衝動にかられて、自動車のもつスピードの魅力に負け、自己抑制ができなくなり、暴走し、事故を起している」といえます。

このような青少年運転者の事故を未然に防ぐには、本人の安全運転の自覚はもとより、家庭、とくに両親の注意、指導が大切といえます。車を不必要に子供に買いたえるのではなく、社会的責任の自覚の確立で購入するよう指導することも大切です。

1人2口までOK

### 町民交通傷害保険

保険期間は来年3月まで

保険料は月額40円

★お申し込み、お問い合わせは

役場交通防災係、支所、出張所へ



第4回産業まつりが、依田公園を会場に10月4日行われました。野菜・牛肉・アキアジの即売などが行われ、町内はもとより、近隣の市町村からも1万人を越える人が集まりにぎわいました。



第6回全町老人運動会が9月30日、町営グラウンドに650人が参加して行われました。今年は国際障害者年であり、体の不自由な人も参加、楽しい運動会となりました。競技の結果、南幕別チームが優勝しました。



第10回緑町第2公区の敬老芸能会が10月10日行われました。保育所の子供たちのお遊びや民謡の発表から昼食のブタ汁まで公区の皆さんが協力、楽しい一日でした。



## 寄付者のお名前

■町へ………

▽道路建設株式会社（代表取締役・宮崎英夫）から、八月の二度にわたる台風の災害見舞いとして町へ十萬円の寄付がありました。▽脇坂一也さん（相川）から幕別温泉ホテルの利用客の皆さんにプレゼントしてくださいと、菊の花四百五十鉢が寄付され、訪れたお客に手渡されました。

■町社会福祉協議会へ………

▽幕別民謡会から一萬円 ▽篠島ノブさん（千住）から一萬三千元

▽佐々木正治さん（札内あかしや町）から、ホール・イン・ワン記念として障害者福祉に役立ててくださいと五萬円

■老人クラブへ………

▽川瀬卓雄さん（札内豊町）から札内老人クラブへ二萬円 ▽千賀考雄さん（西和）から札内老人クラブへ五萬円

## 日置砂利工業(株)から

### 百万円の寄付

日置砂利工業株式会社（代表取締役・日置米蔵）から、本社社屋



「健康づくりは毎日の体操で」と健康体操の講習会が10月21日町民会館に60人が参加して行なわれました。

## 幕別町が受賞

帯広警察署管内「市町村別無事故競争」で………

帯広警察署管内「市町村別無事故競争」で、幕別町が八ヶ月において、最も事故が少なく、帯広警察署長から表彰されました。

## 小川邦正さんが

### 緑十字銅賞を受賞

また、小川邦正さん（古舞）が日頃の交通安全に対する功績が認められて、全日本交通安全協会長表彰・緑十字銅賞を受賞しました。なお、同賞受賞は、幕別町では二人目です。

と札内事業所の落成式をやめて、町の交通安全施設整備に使ってほしいと百万円の寄付がありました。



大石町長に手渡す日置さん



幕別町ふるさと館

〒089-05 幕別町字依田384-3 ☎(01555)6-3117  
A.M.9:30~P.M.6:00 毎週火曜日休館

紙粘土の世界

### 池内秀子展

これ全部、紙粘土でできています。カラーでお見せできないのが残念です。池内秀子展は好評 開催中——11月30日まで。



### 幕別ものがたり

連載 第22回

**花子** ばあちゃん。川の中止若に停車場ができてね、そこへ竹がならべてさし込んであるけど、あはな。それに武山市街からたたくのさ。あなたの人が移ってきてね、とうと

**祖母** あれはう今のように止若が幕別の中心にウライと言ったんだよ。

**花子** とこで、にぎやかなころ十勝川を通っての猿別の市街に、工場みたいなものはなかったの。

**祖母** 工場というほどではないけど、明治の終わりごろ、牛尾栄蔵

**花子** 石うすを引いていたころくらべたら、ずいぶん楽になったんだね。

**祖母** 家でだんごや柏もちを食べたい時はね、わたしたち女子どもが朝早くから手もたよく見えなくなる夕方まで、いっしょうけん

命に石うすを回したのさ。

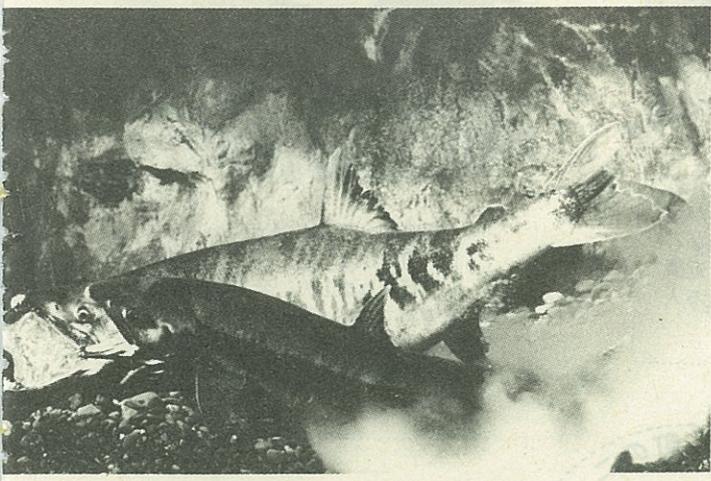
**花子** それじゃ、ずいぶん疲れたで

## いっしょも産んだよー！

### サケ、八か所で産卵

サケの産卵シーンは何度見ても感動的。その感激をスタッフばかりでなく、たくさんの人たちにも味わってもらおうと、十月十七日夕方から二十一日深夜までオールナイトで開館しました。

この間、徹夜組も含めて述べ二百人がジャンボ水槽の周りで待ちました。産卵はわずかに十秒足らずの出来事——みんなが見ている前で産んだのは二回。目撃した人、写真撮影に成功した人は本当に幸運でした。運の悪い人は三日連続してカメラを構



ことしジャンボ水槽に入れたサケは十五匹。大樹町浜大樹で捕獲された中から川へさかのぼる間近なのを運び、車で運んできました。十勝川河口から堰堤までさかのぼるサケは、早いもので三日かかりますが、ふるさと館のサケは一時間半でずいぶん楽をして産卵場所に到着したことになります。

体力の消耗が少なかったせいなのか、これまでと比べ産卵は順調で全部で八か所、卵が産み落とされました。発眼するまで、卵はそのままジャンボ水槽にそとしておき、十一月中旬に砂利の中からすくい上げて他の魚に食べられないよう隔離して育てます。

産卵前のオス同士の抗争、産卵の瞬間など、野性の世界を収めたビデオテープは今、編集。十一月中旬公開予定です。

### サーモン通信

⑬ ことしの卵はふるさと館だけでなく、町内の小中学校でも孵化から放流までの間、飼育と観察をしたいと思えます。そして各学校近くの川から放流を——。



**花子** ばあちゃん。明治三十八年、たそうだ。それに大正の終わりごろ、この市街で野村勇美という人が、五馬力の木炭ガエンジンを使って始めてね、ばあちゃんはそのころよく見に行つたものだよ。

**花子** 石うすを引いていたころくらべたら、ずいぶん楽になったんだね。

**祖母** 家でだんごや柏もちを食べたい時はね、わたしたち女子どもが朝早くから手もたよく見えなくなる夕方まで、いっしょうけん

命に石うすを回したのさ。

**花子** それじゃ、ずいぶん疲れたで

**祖母** そうだねえ。とてもつらくてね、泣きたくなったこともあったよ。だからいつも石うすに合わせて、楽しいというたを自分で作りながら回したものだ。

**花子** とこで、私の住んでいる札内にはなかったの。

**祖母** 大正八年に石原善三郎という人が、馬を売ったお金で、そのころにはまだめずらしい発動機を東京からとり寄せてね、今の丸山食堂の裏あたりに工場を作ったそうだよ。

**花子** 今日はとても勉強になったわ。ばあちゃん、どうもありがとう。

**祖母** はいよ。私もとても楽しかったよ。またいっしょに散歩しようね。

**花子** はい。

(文・小助川勝義)